

検温（体表面温度 計測）サンプル

交通手段		10/9	10/10	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15	10/16	平均	温度差
自転車	Aさん ① 出勤	35.1			34.7	35.5	33.6	34.5	34.7	② 34.7	
	女性 退勤	36.1			37.0	36.6	36.7	36.7	36.8	③ 36.7	2.0 ④
	Bさん 出勤				33.1	35.5	33.7	34.0	33.7	34.0	
	女性 退勤				36.5	37.0	36.8	36.1	36.9	36.7	2.7
	Cさん 出勤				33.7	33.3	33.2		33.9	33.5	
	女性 退勤				36.9	36.3	36.4		36.9	36.6	3.1
	Dさん 出勤	36.0			36.2	34.2	36.1	33.6		35.2	
	女性 退勤	37.1			36.3	36.1	36.4	36.4		36.5	1.2
車	Eさん 出勤		36.0		35.8	36.3	35.6	34.7	35.1	35.6	
	男性 退勤		36.2		37.6	36.5	36.8	36.3	36.7	36.7	1.1
	Fさん 出勤			35.9		35.9	35.1	36.3	35.3	35.7	
	男性 退勤			36.3		35.1	35.9	36.3	36.4	36.0	0.3
	Gさん 出勤	35.6			37.2	36.7	35.6	35.5	35.6	36.0	
	女性 退勤	34.1			36.5	36.8	36.6	36.6	36.7	36.2	0.2
	Hさん 出勤					34.6	34.3	34.6	34.2	34.4	
	女性 退勤					36.7	37.1	36.5	36.8	36.8	2.4

■□■ 上記は検温（体表面温度 計測）の実測値サンプルです ■□■

①Aさんを例にご説明します

Aさんは自転車通勤をしております

この季節は寒くなりつつあり、検温（体表面温度を計測）すると実際の体温より低いというのがわかります

②出勤時の体表面温度の平均は 34.7℃

外は寒いのですが、社内は空調が効いており、快適な環境で仕事をします

③その結果、退勤時にはより体温に近い体表面温度 36.7℃という値になります

④ここでもう一つ、出勤時の体温（体表面温度）と退勤時の体温には 2℃の差がでます

Aさんの場合、出勤時の体温（体表面温度）は、退勤時には2℃上がりました

■□■ 上記の検温（体表面温度 計測）の結果 以下の点が分かります ■□■

1. 個人により体温（体表面温度）は異なる
2. 体温（体表面温度）は外気の影響を受ける
今回の例は寒くなりつつあるので、体温（体表面温度）は低くなりました

■□■ 今度は検温の目的＝社員の健康管理 という視点で検証してみます ■□■

体温異常をどのように検知するかという問題です

1. 体温計で計測するのが一番確実です
ただ、少々時間と手間がかかります
2. 代替案としては、非接触で体表面温度を計測します
例えば警報値（ex 37.5℃）を設定しこれを超過したら体温異常と判断します
季節がある国では、これは少々問題があります
体表面温度は外気の影響を受けやすく、個人により体温（平熱）は異なります
3. V8では個人ごとに“移動平均+許容値”を超えたら、体温異常と判断します
例えば、過去30日間の平均値（ex 35.5℃）を計算し、許容値（ex 2.0℃）とした場合
移動平均値+許容値=35.5℃+2.0℃=37.5℃以上なら体温異常と判断します